

第27回日本生理心理学会 ミニシンポジウム2 (同志社大学, 2009.5.17)
10:00 - 12:00

中枢系の心理生理学はどこへいくのか

— 予期と予測の観点から —

企画趣旨説明

広島大学大学院 総合科学研究科 行動科学講座

入戸野 宏

中枢系(脳)の心理生理学の現状

- 測定技術の成熟とさらなる進化
- 発表論文数の増大
- 実施-査読-出版プロセスの迅速化
- 査読者の不足
- 新興国の急成長
- その他

注目される面白い研究をするために
いま何が必要だろうか？

面白い研究とは？

Tesser, A. (社会心理学者)

“私を含めた多くの人が心理学を続けているのは、アイデアの美しさがあるからだ。世界をある方法で見ることは、ポジティブでほとんど官能的ともいえる経験である。”

Sアイデア

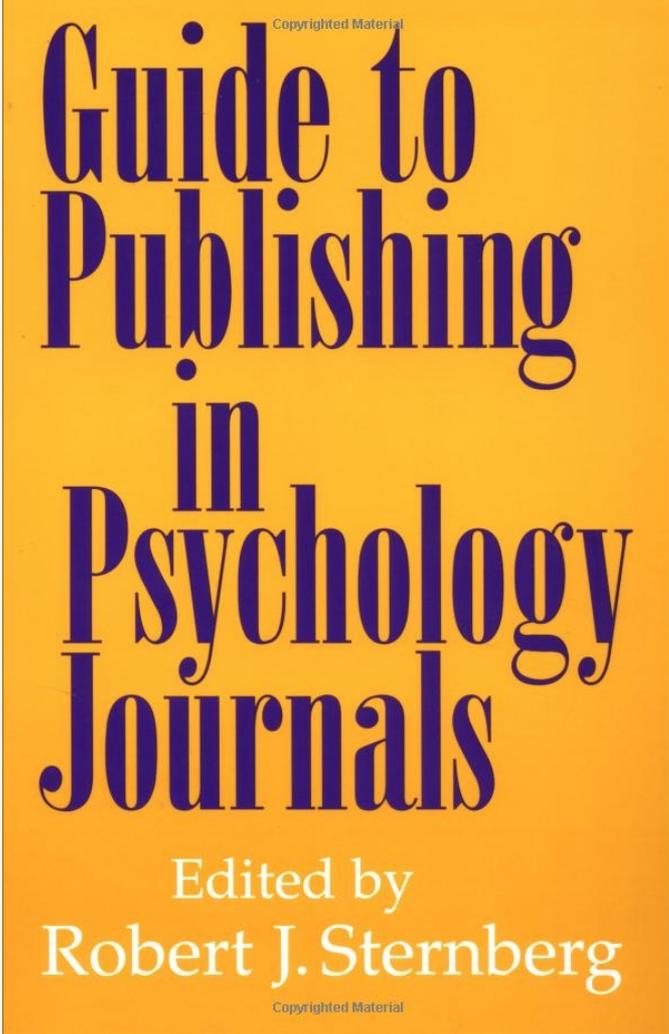
オリジナリティのある新しい見方。
明快な論理とデータに裏打ちされている。

Bアイデア

古いアイデアの焼き直し。
直感に頼り、論理的でない。

世界が、“発見”されるのではなく、“発明”されたときに、Sアイデアが生まれる。

アイデアが必要！



Guide to Publishing in Psychology Journals

Edited by
Robert J. Sternberg

©2000 Cambridge University Press

第5章 理論と仮説

心理生理学の目的

Andreassi, J. (2000)

“心理生理学は、心理的な操作とその結果として生体から測定される生理的反応との諸関係についての研究であり、精神-身体過程の関係理解を深めることを目的とする。”

その魅力の源

“見える化 (visualization)”

見えないもの(心)を見えるように実体化してくれる。

何が見えるようになるといいのか？

現在最もアクティブに活躍している3名の若手・中堅研究者に、自分の研究関心と将来の展望について話してもらおう。

キーワードは予期・予測

- ・認知心理学・認知科学の中心概念の一つ。
- ・心理生理学の分野でもなじみが深い。
- ・さまざまな意味をもつ。

スケジュール

1. 企画趣旨と演者の紹介(5分)

入戸野 宏(広島大学)

2. 話題提供(各25分発表+5分質疑)

木村 元洋(日本学術振興会・名古屋大学)

「視覚システムにおける規則性の自動的保持」

小野田 慶一(島根大学)

「情動価を伴う将来予期の神経機序とうつ病における認知」

佐藤 徳(富山大学)

「エージェンシー感の成立要因について」

3. 指定討論(5分)

沖田 庸嵩(愛知淑徳大学)

4. 指定討論への回答(10分)

5. フロアをまじえた総合討論(10分)

話題提供者の紹介

視覚システムにおける規則性の自動的保持 — 視覚ミスマッチ陰性電位を用いた検討 —

木村 元洋 (日本学術振興会・名古屋大学)

現在の研究テーマ

視覚的記憶・視覚的注意・事象関連脳電位

最近の研究業績

Kimura, M., et al. (2009). Human visual system automatically encodes sequential regularities of discrete events. *Journal of Cognitive Neuroscience*, in press.

Kimura, M., et al. (2009). Visual mismatch negativity: New evidence from the equiprobable paradigm. *Psychophysiology*, **46**, 402–409.

視覚MMNから 脳の予測システムを探る。

情動価を伴う将来予期の神経機序と うつ病における認知

小野田 慶一(島根大学)

現在の研究テーマ

情動の予期と制御, 強化学習モデルに基づく報酬予測, うつ病

最近の研究業績

Onoda, K., et al. (2009). Neural correlates of associative memory: The effects of negative emotion. *Neuroscience Research*, **64**, 50–55.

Onoda, K., et al. (2008). Anterior cingulate cortex modulates preparatory activation during certain anticipation of negative picture. *Neuropsychologia*, **46**, 102–110.

情動的予期をキーワードに, 基礎と臨床をつなぐ。

エージェンシー感の成立要因について —身体化された自己から言語制作される自己へ—

佐藤 徳(富山大学)

現在の研究テーマ

自己, 他者, 身体, 行為, 内省・内観, メタ意識, 感情, 感情調整, 間主観性, 間身体性, 感覚統合, 運動制御, 意思決定, 自伝的想起, 共感, etc.

最近の研究業績

Sato, A. (2008). Action observation modulates auditory perception of the consequence of others' actions. *Consciousness and Cognition*, 17, 1219–1227.

Sato, A. (2009). Both motor prediction and conceptual congruency between preview and action–effect contribute to explicit judgment of agency. *Cognition*, 110, 74–83.

私が「私」だと思えるための予測。生理指標に期待すること。

スケジュール

1. 企画趣旨と演者の紹介(5分)

入戸野 宏(広島大学)

2. 話題提供(各25分発表+5分質疑)

木村 元洋(日本学術振興会・名古屋大学)

「視覚システムにおける規則性の自動的保持」

小野田 慶一(島根大学)

「情動価を伴う将来予期の神経機序とうつ病における認知」

佐藤 徳(富山大学)

「エージェンシー感の成立要因について」

3. 指定討論(5分)

沖田 庸嵩(愛知淑徳大学)

4. 指定討論への回答(10分)

5. フロアをまじえた総合討論(10分)